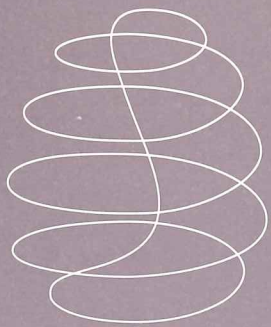


見て、ふれて、聞いて、五感で体験する  
アート&サイエンスの展覧会



# メビウスの卵展

Eggs of Möbius 1996

Eggs of Möbius  
1996  
Science in Art  
Exhibition

1996年

7月20日(土)→7月31日(水)

開館=午前10時→午後6時30分(入館は6時まで)

休館=7月25日(木)/入場無料

主催=メビウスの卵展東京展実行委員会

(財)品川文化振興事業団O美術館

協力=「来るべき芸術」のためのワークショップ

共同研究=NEC NECデザイン

器材協力=アップルコンピュータ株式会社

助成=芸術文化振興基金

財品川文化振興事業団

○美術館

東京都品川区大崎1-6-2  
大崎ニューシティ2号館  
Tel.03-3495-4040



## 【今年の特色】

今年も、メビウスの卵展は、東京・福岡・仙台・多摩の、全国4カ所で開催されます。本展は、1991年以来、Science in Art—芸術の中に生きている科学をテーマに、こどもから大人まで、誰もが自分で展示物を操作できる「観客参加型の展示」を発展させてきました。

今年の東京展の大きな特色は、物理科学、ハイテクから触覚の造形まで、幅広い作品が寄せられ、多くの分野の研究者、技術者、アーティストの「展示の実験室」になることです。ヴァーチャル空間の探知装置や電磁コイルを使った発光装置もあれば、巨大なドームやいい音を奏でる鉄の楽器もあります。水や光や波など、シンプルな現象を扱った作品もあります。

その一方で「触覚の造形」など、アートセラピー的な展示もあります。

そして来館者のみなさんは、それらのどのセクションでも、自分で装置に触れ、操作することができるようになっています。

## 【拡大するワークショップ】

今年の展覧会のもう1つの特色は、会期中、毎日開かれるワークショップです。これらはこどもも大人も参加できる小さな実験室です。

段ボールから三角形を切り出して3.8mのドーム建築を作るものから、物理学の実験まで、毎日、出品者によるいろいろな分野のワークショップが開かれます。

数学、物理学、建築、デザインからコンピュータ心理学やアートセラピーの分野に属するワークショップまであります。しかもそれらは出品されている作品の原理や発想と密接な関連を持っているので、出品作を理解するきっかけにもなります。

## ◎記念講演

7月20日(午後5時、無料)

### ●全国に拡大されたメビウスの卵展

石黒敦彦(「来るべき芸術」のためのワークショップ代表)

### ●サイエンスとアートの共生

高木隆司(東京農工大教授、形の科学会会長)

## ◎ワークショップ

(各日とも午後2時→4時、無料、先着30名まで。当日朝より整理券発行)

### ●7月20日 段ボールの「巨大フラードーム」を作ろう。

小林一郎(ドーム建築家)

直径3.8mのドームを、こどもも大人も協力しあって、段ボールで作ります。

### ●7月21日 ヘンコー(偏光)ランドの冒険

稲野浩行(ガラス研究者、北海道立工業試験場研究員)

稲野まり(造形作家)

偏光フィルターを使った、光のスライド+パフォーマンス。

### ●7月22日 音・を・め・で・よ・う 音楽視覚法—

佐藤慶子(作曲家)

あなたも「水」に模様を描いてみませんか?

波紋の向こうに、音の風景が見えます。

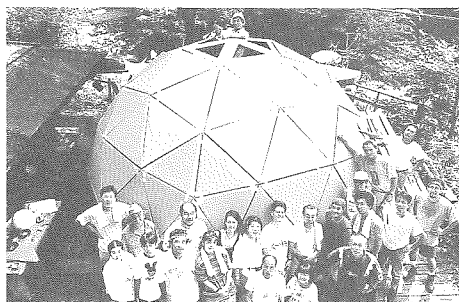
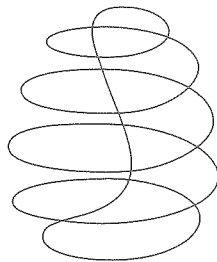
### ●7月23日 「星つり」多面体を作ろう。

西野隆史(多面体研究家)

釣りざおの先で「生き物」みたいに動く、ふしぎな「星」を作ります。

# メビウスの卵展

E g g s o f M ö b i u s 1 9 9 6



段ボールの巨大フラードームをみんなで作る!



ヴァーチャル空間を体験する「空間図形ビューア」

### ●7月24日 工場まちのジャンクアートIII

下中菜穂(造形作家) \*ワークショップ・ゲスト

町工場のエリアで見つけてきたいろいろな材料を使ってあなたのオブジェを作ってもらいます。

### ●7月26日 かたちからイメージする

加藤治男(工業デザイナー)

粘土を使って、あたまの中のイメージを形にする、「手とあたまの体操」です。

### ●7月27日 カオスモス・ドローイングマシンを作ろう。

富岡雅寛(造形作家)

あなたの作った振り子マシンにペンを持たせるだけで、ふしぎな「絵」を描いてくれます。

### ●7月28日 立体視と認知

細馬宏通(コミュニケーション学者、滋賀県立大学講師)

パソコンを使った「絵」と「ことば」のワークショップ。思いがけないふしぎ体験が待っています。

### ●7月29日 ビスカス・フィンガーのお部屋

桐原和大・田村文子(アート&サイエンス・ユニット)

樹の枝のように伸びていく美しい形「ビスカス・フィンガー」を、水と油で作る物理実験アートです。

### ●7月30日 触覚であそぶ

乗松剛治(画家、都立小平福祉園指導者)

いろいろな素材を使って、手で触って、感じる絵画を作ります。

### ●7月31日 目でみえる、有理数と無理数

岡崎幸廣(数学家)

数式になると苦手な人も多いけれど、自分で作るとかんだんで楽しい「目で見える」数学の時間です。

\*会場内でワークショップを行うため、その間、展示物の一部が観覧できない場合も生じます。その旨をご承知ください。

\*7月20日のワークショップは、美術館の近くの屋外で行います。当日入口で受付けますので、来館時にご確認ください。

\*詳細については実行委員会、美術館にお問い合わせください。

## ●出品者

伊勢利枝 from 仙台(映像装置)

稲野浩行+稲野まり from 札幌(偏光フィルターによる作品)

池内桂子(フォトグラム)

岡崎幸廣(風/流体力学のあそび)

太田孝幸(コンピュータ立体視作品)

大谷喜朋(ストロボ+プロジェクターによるアニメ装置)

加藤治男(音の卵、シャボン膜の立体、音のモビール)

木村亮太(ゲシュタルトの錯視効果)

小林一郎 from 小田原(段ボールで作った巨大フラードーム)

郷津晴彦(流木のオブジェ)

斉藤典子(タブロー)

佐藤慶子(振動によって水がパターンを描く作品)

竹野美奈子(磁性流体の作品)

立川真理子(「水の中から生まれるかたち」)

桐原和大+田村文子(樹枝状結晶の成長モデル)

富岡雅寛(カオスモス・ウエーブマシン)

永原康史(インタラクティブ・アート)

西野隆史(「星つり」の多面体)

乗松剛治(触覚で感じる絵)

原 鉄 from 仙台(サウンド・オブジェ)

原田和男(鉄の音響彫刻装置)

バララウンド(サイキック・インスタレーション)

日詰明男(プレアデス系=黄金比の立体モビール)

昼間行雄(アニメ装置+こどもの城アニメキット)

細馬宏通 from 京都(コンピュータ立体視作品)

MAAH(水+光の屈折の作品)

松井美流(ホログラム立体視、さまざまな立体視、螺旋層)

本尾義行(空の見える半透明ドーム)

三澤純子(多次元可視化装置) \*NECデザイン共同研究

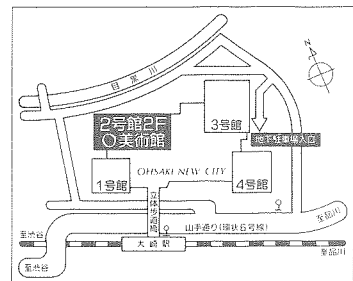
上窪真一(ハイテクで見る「空間図形ビューア」) \*NEC共同研究

柳瀬順一(ハイパー・バズル)

山本千恵子 from 大阪(バズルの立体)

由木礼(色彩発生装置)

\*出品者、ワークショップは一部が変更されることもございます。



## O美術館

東京都品川区大崎1-6-2

大崎ニューシティ2号館2F Tel.03-3495-4040

## 【交通】

JR山手線大崎駅東口下車徒歩1分

東急バス(大井町→渋谷駅)大崎駅徒歩1分

## 【駐車場】

美術館専用駐車場はございません。

お車でご来場の場合、「大崎ニューシティ」地下2階の駐車場

(有料)をご利用下さい。

## ▼内容についてのお問い合わせ先

メビウスの卵展東京展実行委員会 Tel.03-3479-4755